



宮崎 匠 議員

村民給付型商品券事業の実施について

質 今、恩納村でオーバーツーリズムの部分が目立ってしまっているのが現状です。村民感情として「観光ばかりが盛り上がりすぎて住民に還元されていないように感じる」といった声があります。ふるさと納税を活用し、行政が多く事業を実施することで、村民に還元されているのも重々理解はしていますが、村民が実感できていない、理解できていないというのも現状あります。今回提案している「村民給付型商品券事業の実施について」は、村民に対して観光の恩恵を実感していただくためにも、観光分野からの一番の恩恵であるふるさと納税の税収を活用すること意義があり、その税収を活用してお年寄りから子ども達まで、全村民が公平公正に分

かりやすく観光の恩恵を享受できる事業であると考えています。改めて、村民給付型商品券事業の実施について、村長の見解を伺う。

答 村長（長浜 善巳）
観光が村民に対して、どのような利益があるのか。弊害的なところもあります。我々も今後、こういったところも踏まえてどのように村民に対しても還元できるか。どのような方法が効果的かというのを考えながら進めていきたいと思っています。

保育料の完全無償化について

質 「子育てしやすい村であれば、恩納村に住み続けたい」「移住を検討したい」という子育て世帯が多く存在すると考えられます。保育料の完全無償化が実現すれば、人口減少に歯止めをかけ、若い世代の定住促進に直結すると考えますが、執行部の見解を伺う。

答 福祉課長（石川 司）
宮崎議員の提案されている保育料の完全無償化、持続可能な財源確保も含めて引き続き、子育て世帯への経済的支援として「保育料の完全無償化制度」を今年度中に、課内で方針を示していければと考えています。

実施時期は、また一般財源の確保が可能になった際に進めていければと考えています。

答 村長（長浜 善巳）
保育料の完全無償化ですが、やはり持続可能な財源確保が一番重要と考えています。現在、福祉課のほうにおいては、保育料の完全無償化制度を今年度中に方針を示していければと進めています。それを踏まえて我々もまた慎重に協議、また調整を行っていききたいと思っています。

提 このような突出した施策を打ち出していないと、一度出ていってしまった子育て世帯をまた呼び戻すのは、なかなか難しいことだと思えます。人口流出を防ぐ、若い世代が残らないと地域の伝統文化も発展していきませんし、継承もされていかないと思いますので、こういった思い切った施策を、ぜひ第6次後期計画に盛り込んでいただきたいと思います。

若者、子育て世帯の定住促進策について

質 恩納村役場で開催された恩納村SDGs研修会で、講師の小林氏から提案、提言されていた「若者や中間層が主体となった会議の開催が、今後本村においてとても

重要になってくるということがありました。若者や中間層の主体性、自主性を尊重し、他人任せではなく自らやる、自ら動く、村の未来を自分ごととして考える。そういうきっかけになると考えています。そういった若者たち、中間層の人たちの自分事として考えるきっかけの場の創出のためにも、「若者、中間層が主体となった協議会の設置」を提案させていただきます。その協議会から、テーマを設定して施策や事業の立案、提言を行うことができれば、恩納村の未来を担う意義のある会議になると考えていますが、村長の見解を伺う。

答 村長（長浜 善巳）
今回我々は15の区、また一つの地域を回って行政懇談会をしました。その中でもやはり子育て支援、また若者の定住化、また若者が少なくなったという声をたくさん聞きました。今、議員からあります「若者が地域をつくっていく」ということ、私はとても重要だと思っています。やはり我々も若い皆さんが自分たちの地域を、また村をどのように活性化させるか。また未来をつくっていくかというのは大変重要な部分であると認識しています。今後、議員から提案のあります、この「若者たちがつくる協議会」、検討していきたいと思っています。



亀谷 梢 議員

観光と文化の融合及び伝統文化保存について

質 観光文化と文化観光があると言われていますが、恩納村の現在はどちらだと思いか伺う。

答 商工観光課長（城野 正和）
地域の人たちのまつりに観光客が参加するようになったことや、魚のつかみ取り、牛汁の大鍋、これは地域の生活文化や食文化、観光に発展し、花火は村内外から人気があり、地域と観光の交わりの観光文化に当たるものだと考えています。地域の伝統芸能を取り入れられており、観光客が鑑賞することから文化観光に当たると考え「観光文化」と「文化観光」が複合的に融合していると考えています。

社会教育課長（仲村 泰弘）

答 文化振興を起点とした観光振興と地域活性化につながる「文化観光」の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。村の第3次観光振興計画では、歴史文化資源等の活用と併せてスポーツ合宿の誘致が基本目標となっています。

質 今後の観光に対するビジョンを伺う。

答 恩納村長（長浜 善巳）
観光ビジョンは、美しい自然景観の保全育成、地域住民との連携、伝統芸能の継承、また地場産業と観光の連携など、多角的に観光振興を推進したいと思っています。観光戦略は、「来訪者数の増加」を追求する段階から、「質の高い観光」へと転換し、自然環境や伝統文化、リゾート資源をいかしたプロモーションを強化していきます。こうした取組を通して、持続可能で豊かな観光振興、地域経済への貢献にもつなげていきます。

質 恩納番所跡地の利用計画について伺う。

答 企画課長（喜久山 隆）
恩納村として、具体的な計画はありません。庁舎の改修とか、駐車スペースが限られています。今後も職員の駐車場としての活用が見込まれています。

区として周辺を活用した計画があるのかを伺い、今後どのように活用できるのか検討していきたいと考えています。

質 うんなナビーの屋敷について令和4年の9月定例会の答弁の中で、うんなナビーは口承伝で歴史の書物とかの認識で、踏み込めないのか。ナビー屋敷跡をいま一度検討する必要があるか伺う。

答 企画課長（喜久山 隆）
文化的資源というところで、琉歌とか大変貴重なことです。集落内というところでオーバーツーリズム対策と観光客に対するルールづくり等の課題があります。課題を区、教育委員会、商工観光課と連携をしてどのように活用できるか検討していきたいと考えています。

質 万座毛に尚敬王が、1726年に訪れて（万人を座らせるに足る）と、万座毛と名づけられたと言われています。来年で300年、恩納村としては、何か計画されているのか伺う。

答 社会教育課長（仲村 泰弘）
尚敬王と万座毛を関連させる資料が乏しいため、関連する事業は予定していません。万座毛は地域の憩いの場として長年親しまれており、尚敬王と

万座毛に関するミニパネル展が実施できないか検討したいと思っています。

行政・住民サービス及び職員研修について

質 役場ロビーの案内係・案内板の必要性について伺う。

答 総務課長（宮平 寛）
住民サービスの向上と職員の業務負担の適正化という観点から、慎重に検討すべきものと認識しています。ロビーでの案内があると、初めて来庁される方が手続に迷う不安を減らせる点は事実です。案内板は、早速対応していきたいと考えています。

質 村民の功労賞や大臣賞いろいろあります。他市町村では、年間の受賞者を祝う場があると聞いています。恩納村として今後、そういう場を設けていただけるか伺う。

答 総務課長（宮平 寛）
各表彰に関しては、広報誌により村民の方へ受賞の報告はしている状況です。他市町村においては、受賞祝賀会等が開催されていることは、新聞等で把握はしています。今後の対応としては、各種受賞者の功績を称えて、新年祝賀会の中で紹介、披露していきたいと考えています。